

石垣島家族旅行 ～石垣島・竹富島・小浜島～

平成26年12月26日（金） ～ 平成27年1月1日（木）



【旅程】

12月26日 移動日

自宅 → 東京駅 (9:20 - 11:01 のぞみ) → 名古屋駅 (11:20 - 11:48 ミュースカイ)
→ 中部国際空港 (14:30 - 17:00ANA) → 那覇空港 (17:25 - 18:25ANA) → 石垣空港
→ ニュー浜乃荘 → きたうち牧場浜崎本店にて焼肉

12月27日 竹富島観光

石垣島 (9:00 発フェリー) → 竹富島観光 (新田観光水牛バス → 自転車でコンドイ浜・昼食)
竹富島 (14:45 フェリー) → 石垣島 (市内でショッピングと食事)

12月28日 小浜島観光

石垣島 (9:10 フェリー) → 小浜島観光 (コハマ交通で島内観光 → はいむるぶしにて昼食)
→ 小浜島 (14:40 フェリー) → 石垣島 (近くの土産店で買い物)

12月29日 石垣島観光1 絶景の景色を巡る

ニュー浜乃荘 → スカイレンタカー → 玉取崎展望台 → 伊原間にあるビーチ → サビチ洞
→ うぶや一家で昼食 → 平久保崎展望台 → ヤエヤマヤシ群落 → 川平湾にてグラスボート
→ 地元のスーパーで夕食購入

12月30日 石垣島観光2 島内の観光施設をゆっくり観光

ニュー浜乃荘 → 石垣島鍾乳洞 → 真栄里ビーチ → ANA インターコンチネンタルで昼食
→ やいま村観光 → バンナ公園のエメラルドの海をみる展望台 → 地元のスーパーで夕食購入

12月31日 石垣島観光3 体験とドライブ

ニュー浜乃荘 → 塩屋 → 琉球まぶやでシーサー・魚の絵付け体験 → 昼食に八重山そば
→ 島内を時計回りにドライブ → スカイレンタカー → A&W で夕食購入

1月1日 移動

石垣空港 (8:10 - 9:05ANA) → 那覇空港 (ゆいれーる) → 国際通り散策 (ゆいれーる)
→ 那覇空港 (11:45 - 13:45ANA 30分遅延) → 中部国際空港 (14:37 - 15:05 ミュースカイ)
→ 名古屋駅 (15:12 - 16:53 雪のため5分遅延) → 東京駅 → 自宅

【石垣島】

沖縄県石垣市に属する島であり、面積は沖縄県で沖縄本島、西表島に次いで3番目に広い面積を持つ。人口は4万5千人である。八重山諸島の中心地であるが、県庁所在地の那覇市からは410km以上離れている。一方で台湾から270kmであり、中華料理を営業する店舗も多数見受けられる。亜熱帯海洋気候に属しており、訪れた12月でも平均気温20度前後と東京都は20度近い気温差がある。2013年には新石垣空港（南ぬ島石垣空港）が開港した。

【まえがき】

今回の正月休みはANAのマイレージを使うため、26日（金）から早めに休みを取り、石垣島へ行くことを企画した。しかし、羽田発の便は競争率が高く、残念ながら名古屋のセントレア空港発の便しかとることができなかった。そのため6泊7日の長期旅行ではあったが、初日と最終日はほぼ移動に費やすこととなった。

【12月26日（金）】

タクシーで東京駅へ向かったが平日ということをつっかり忘れており、渋滞にはまったが何とか新幹線の時間に間に合うことができた。新幹線は平日にもかかわらず、満席に近い状態であった。あつという間に名古屋駅に到着し、初めてのミュースカイに乗車して中部国際空港へ向かった。

中部国際空港は、国際空港評議会（ACI）による年間利用者数500万から1,500万人の国際空港評価で2005年から4年連続の世界1位とのことで、常に広く快適な空港である。2Fのフードコートで昼食をとったのち、遊具スペースで子どもたちを思う存分遊ばせ、ストレスを発散させた。そのおかげで那覇行きの飛行機では昼寝をしてくれたため、難なく那覇に到着。石垣空港までもスムーズに移動することができた。

石垣空港は東京と違い、20度近い気温があったため冬ということのを忘れてしまうくらい快適であった。ここからタクシーにて20分ほどで宿泊先の「ニュー浜乃荘」に到着した。値段はもとより、子どもが小さいため和室ということも選択基準に入れていたが、当宿泊施設は6泊朝食付きで約5万円と破格であった。到着したのは午後8時。丸々半日の移動で疲れていたが、かねてより行きたかった「きたうち牧場」へ行き、焼肉に舌鼓を打った。旅行ということで少々調子にのってしまい、会計が15000と、初日から大出費をしてしまったことに少々後悔しつつ、就寝となった。



【12月27日（土）】

昨日の長時間移動にもかかわらず、全員が元気に目覚めることができ、予定通り竹富島観光へ向かうことができた。竹富島は石垣島からフェリーで10分程度（約6km）の距離にあり、人口は365人、戸数164戸（2014年10月31日現在）、町並みが重要伝統的建造物群保存地区として選定されている。八重山ミンサーの一般的な「いつの世までも末永く」デザイン発祥の地であり、「なごみの塔」「西栈橋」「小城盛」などの歴史的建造物が数多くみられ、保存状態が良好である。また、沖縄を代表する民謡「安里屋ユンタ」の主人公である安里屋クヤマ生誕の地である。到着後、「新田観光」の水牛車に乗り、伝統的な街並みをゆっくりと観光することができた。車夫さんの、「安里屋ユンタ」には聞き惚れてしまい、八重山諸島に来ていることを実感できる体験であった。下車後はレンタサイクルで島内を巡り、西栈橋、コンドイ浜と景色を楽しむことができた。昼食に「そば処竹乃子」にて八重山そばを食し、体力を回復。その後は「なごみの塔」へ行ったものの、展望台は階段が急であったため、抱っこひもで航希を抱えていた私は登ることを断念した。長男の祐希も怖がったため和恵だけが見晴らしの良い景色を楽しんでいた。帰りのフェリーでは長男祐希がすっかり寝てしまい、浜乃荘までタクシーで帰る羽目に。まだ時間があったため買い物と夕食のために石垣島の繁華街へ観光に出かけたものの、帰りには雨に降られてしまった。



【12月28日（日）】

本日は降水確率が60%と、昨日に続きはっきりしない天気であった。雨に降られないことを祈りつつ、小浜島観光を決行した。小浜島は石垣島よりフェリーで約25分、島の面積の約5分の1をヤマハリゾート（2007年に三井不動産リゾートへ事業譲渡）が開発したリゾート施設「はいむるぶし」および星野リゾートの「星野リゾート リゾナーレ小浜島」が占める。2001年度上半期に放送されたNHK連続テレビ小説『ちゅらさん』の舞台になったことで全国的に知られるようになった。私も妻も「ちゅらさん」を視聴していたわけではないため、島内観光バスで「シュガーロード」や「こはぐら荘」を巡ったがそれほど感動することもなく過ぎてしまった。何より雨に降られて傘をさしながら島内最高峰の「大岳」に登ったことが非常にしんどい思い出となった。島内観光を終わらせたのち、「はいむるぶし」へ移動して昼食をとることとした。当施設には水牛が飼われており、記念に写真を撮ったが長男の祐希は怖がって近づこうともしない。非常に風光明媚なこの施設に当初の予定では宿泊を考えていたが、もう少し子どもたちが成長したほうが楽しめると思い断念した。次回訪れる際にはぜひとも宿泊したい。石垣島へ帰島後、近くの土産店にて買い物をしたが、かの有名な「辺銀食堂の石垣島ラー油」が販売されていたため、4点購入、しめて4000円の出費となった。



【12月29日（月）】

本日よりいよいよレンタカーにて石垣島内を観光することになる。今回お世話になる「スカイレンタカー」は石垣市街、石垣空港いずれからも距離があるため直接タクシーにて移動した。移動手段を手にして最初に訪れたのは玉取崎展望台であったが、そこからきれいな砂浜が見えたため、早々に砂浜を求めて移動した。伊原間の消防署近くに車を止め、砂浜を訪れてその海と砂浜のきれいな様子に感動した。砂浜は粒が大きく、砂というよりも砂利に近い。サンゴも多く転がっていたので子どもたちにはよい遊び場所であった。

車を反時計回りに走らせ、平久保崎へ向かう途中に、「サビチ洞」の表示があったため、せっかくなので立ち寄った。「サビチ洞」は、日本唯一の海に抜けることができる洞窟で、3億7000年前に海底隆起で生まれたといわれている。洞窟内では、様々な形の石筍や石柱があり、八重山の焼き物が展示されていた。それほど長くない洞窟を抜けると、海岸沿いに出ることができ、小さいながらも眺めの良い砂浜に出ることができた。子どもたちを遊ばせるには少々難しいと感じ、早々に立ち去ってしまった。昼食に「うぶや一家」へ立ち寄って八重山そばと名物の島バナナジュースを食した。平久保崎へ向かう途中、長男祐希は寝てしまった。

平久保は石垣島の最北端に位置し、そこから見える景色はサンゴ礁に囲まれて様々なブルーを見せる、まさに絶景である。半島の先端に位置しているため、周りには海が広がり、加えて島の緑や浜の白が織りなす景色には感動すら覚える。石垣島に来たことを実感できる場所の1つであろう。

次に訪れたのは、ヤエヤマヤシ群落、といたいところだが曲がる角を間違え、「ヤエヤマヤシ博物館」なる場所に来てしまった。ここがその観光地と勘違いしたが、後日再度訪れて間違っていたことに気づかされた。

石垣島で必ず訪れたいと思っていた場所の1つである、川平湾に着いたところには祐希も目覚め、家族でグラスボートに乗ることができた。川平湾は石垣島の北西部に位置し、1997年に「川平湾及び於茂登岳」として国の名勝に指定されている。湾口を塞ぐように横たわる「小島」をはじめとする小さな島が湾内に点在し、海中には数多くの種類の造礁サンゴが群落を形成している。このサンゴ群はグラスボートから鑑賞することができた。グラスボートは船底がガラスとなっていて除くことができ、様々な魚とともにサンゴを見ることができた。約30分の乗船時間であったが、子どもたちには少々長い時間であったようだ。祐希にブルーシールのソフトクリームを買い与えて、帰路に就いた。



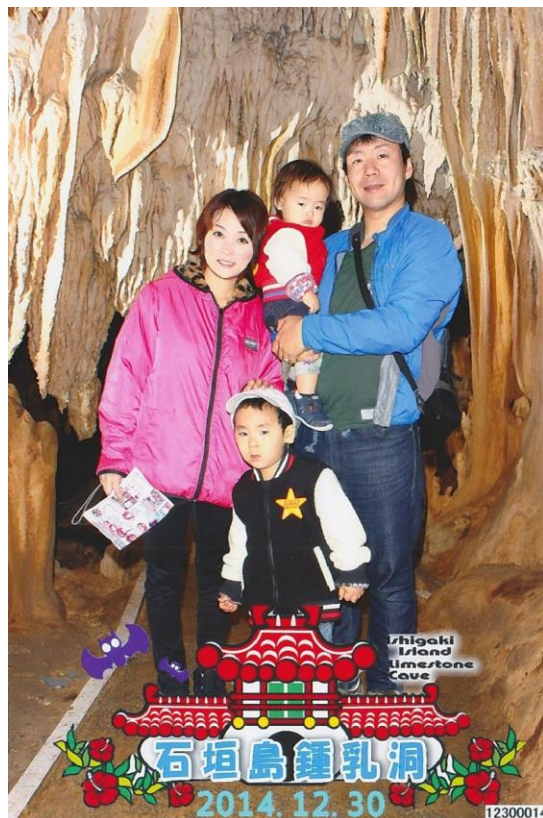
【12月30日（火）】

前日が長時間の車移動であったため、少々疲れを感じていた。まずは「石垣島鍾乳洞」を刊行した。「石垣島鍾乳洞」は全長が秋芳洞に並ぶ 3.2 kmあり、そのうち約 600mが見学できる。洞内も整備されて非常に観光地化している印象を受けた。ゆっくり見て回りたかったが、祐希のトイレによって早足で出口へと向かう羽目になった。

続いては、「ANAインターコンチネンタルホテル」のプライベートビーチである「真栄里ビーチ」でゆっくりと過ごした。祐希・航希は少し冷たかったが下半身まで海に浸かって楽しく遊んでいた。特に航希の成長が著しく、砂浜でも走り回ることができるようになっていた。ANAには高くて泊まれないため、ランチで気分だけ味わうことにしたが、庭のハンモックでくつろいだり、子どもたちは走り回ったりと宿泊者以上に楽しんだと感ずる。

「やいま村」へ移動し、施設内を刊行することにした。「やいま村」は八重山諸島の古民家が移築・保存されており、それぞれの民家で三線の演奏やシーサーの絵付け、サターアンダーギーづくりなどを体験できる。到着して間もなく演奏が見られるということであったため、まずは八重山の伝統的な音楽を鑑賞した（祐希がすぐに飽きてしまったが）。そして、園内に飼育されている「リスザル」に餌をあげられるスペースがあったため、直接手渡しをしてあげることに成功した。リスザルが両肩に乗っている瞬間も写真に収められることができ大満足であった。ただ、祐希はリスザルを怖がって近づこうとしなかった。虫や動物が極端に苦手なのは相変わらずである。

石垣島 5 日目であったがなかなか天候に恵まれず、これまで夕日を臨むことができなかったため、今日こそはとバナナ公園内の「エメラルドの海をみる展望台」でその瞬間を待とうかと考えたが、雲の多さに加え、子どもたちの疲れ具合を鑑みて断念することに。少し待っている間に祐希は大好きな「ぷっちょ」を丸々1本食べてしまい、これ以上留まることができなかったのも1つの要因であった。



【12月31日（水）】

早いもので、石垣島観光ができる最終日となってしまった。この日のテーマは「体験」。まずは「塩屋」で沖縄県の特産である「塩」を多数味見することに。ソフトクリームに塩をかけて味わうスペースがあったため様々試してみたが、何もかけないことが最良であると感じた。この「塩屋」、スカイツリーにもあるため、わざわざ行く必要があったかは少々疑問である。

次にシーサーの絵付け体験をするために「琉球まぶやー」へ伺った。祐希は魚に絵付けをしたが、カラフルに絵具を塗っていく様子は、幼稚園で成長したことを感じる事ができた。私と和恵はシーサーに絵付けをし、自宅玄関に飾ってある。

昼食は石垣の商店街にある、メニューが八重山そばだけの店でとった。この旅行で最も安い食事ではあったが、味もよく、お土産に箸をいただける特典も付いていて満足度の高い店であった。

レンタカーを返すまでに少々時間があったことと、祐希の昼寝の時間であったこともあり、島内を時計回りにドライブすることにした。石垣島は海岸に沿って道路が作られているため、常によい景色に出会える点も魅力的である。スカイレンタカーに車を返却し、浜乃荘へ帰る途中に「A&W」のハンバーガーを購入して、2014年最後の食事とすることにした。



【1月1日（木）】

新年早々、5時半起床であわただしく移動する1日となった。強い低気圧が日本全国を覆っていたため荒れた天気となり、東海地方では雪も降っていた。石垣島から那覇空港への移動はスムーズであったが、那覇空港発の便が30分遅れ、名古屋駅発の新幹線にはギリギリ間に合わない時間であったが頑張って走った結果、新幹線も5分遅れていたため無事乗ることができた。車窓から見える景色は雪化粧で、朝までいた石垣島からは想像できない景色であった。東京駅に17時に到着し、長い旅行を終えた。

【あとがき】

今回は子どもが小さいこともあり、ゆっくりと過ごすことを最優先として緩めの旅程にした。おかげでリフレッシュすることができた。子どもたちの成長も見ることができ、特に航希は旅行前後で発語・行動ともに大きく成長することができた。祐希もそうであるが、小さいときにいろいろな経験をして様々な刺激を受けることで感受性豊かになると考えている。今回の経験が将来の成長の一助となることを期待している。